専大スポーツ

No. 388

大会結果、予定は体育会ホームページ（専大ホームページ「スポーツ」からアクセス）でご確認ください
専大スポーツ編集部 web(http://sensupo.com/)でも大会結果を配信しています

アジア大会　フェンシング女子フルーレ団体

日本初 金メダル

菊池小巻

日本代表のメンバーと共に優勝を喜ぶ菊池（右から２人目）＝８月23日

8月18日～9月2日、インドネシア・ジャカルタで開かれた第18回アジア競技大会。菊池小巻（商4・翔陽高）がフェンシング女子フルーレ団体に日本代表メンバーとして出場し、見事優勝を果たした。同大会同種目での金メダル獲得は日本初の快挙となる。

「大会の規模が大きいということもあると思うが、チームで勝つことが一番の目標だったので、自分が個人戦で優勝した今までのどの大会よりも、今回の団体戦優勝はうれしかった」と優勝の喜びを語った菊池。今大会は準々決勝のレバノン戦のみの出場となったが、「チームを盛り上げるための声出しや、いつでも出場できるように準備を心掛けていた」と話すように、日本チームをベンチから献身的に支え続けた。

優勝できたのは、昨年新たに就任したフランス人のフランク・ボアダンコーチの指導によるところが大きいと強調。「メンタル面のことをずっと言われてきた。『強い気持ちを持って戦え』と教えられ、試合に対する考えが少しずつ変わってきた。6月のアジア選手権団体決勝で韓国に負けてからアジア大会では絶対に勝ちたいと思っていた」と語るように、準決勝でその韓国を破り、勢いそのままに決勝でも中国に勝利を収めた。

11月からは東京五輪出場に向けた重要なシーズンが始まる。「個人、団体ともにワールドカップやグランプリ大会でメダルを取ることが目標」と力強く意気込んだ。

アジアから世界へとさらなる飛躍を遂げるため、彼女の新たなる挑戦から目が離せない。

（久保信裕・文3）

卓球・安藤も奮闘

卓球部女子主将の安藤みなみ（商4・慶誠高）が日本代表として出場。団体戦では準々決勝の中国戦で1ゲームを奪うなど奮闘を見せるも、チームは敗れベスト8に終わった。なお、個人戦はベスト16だった。

安藤は「とても貴重な体験ができた。悔しい結果に終わってしまったが、得ることは多かった。この大会で学んだことを大切にして今後に生かしたい」と大会を振り返った。

（髙橋玲央・法3）

男子サーブル団体にOBの島村智博さん（平18経営、警視庁）が出場。準々決勝で中国に敗れ、惜しくもメダル獲得はならなかった。

28年ぶり18回目の栄冠

田添が殊勲賞

大学日本一を喜ぶ男子メンバー

全日本大学総合卓球選手権・団体の部＝7月12～15日、墨田区総合体育館

男子卓球部が悲願の優勝を達成した。実に28年ぶり、1990年以来の18回目の栄冠となった。

大会MVPである殊勲賞は、シングルス4戦全勝でチームに勢いを呼び込んだ田添響（商4・希望が丘高）が受賞した。

2年連続準優勝に終わっていた専大。今大会も難なく予選を突破し、決勝トーナメントも郡山北斗主将（経営4・関西高）、田添、三部航平（商3・青森山田高）、及川瑞基（商3・青森山田高）の主力4選手の活躍が光り、順当に決勝まで駒を進めた。

決勝の相手は明大。昨年、一昨年と決勝で敗れ、更に春季関東大学リーグ戦でも王座を明け渡した因縁の相手だ。1番手の田添が、フルゲームの末勝利を収めると、続く三部も何度も繰り広げられるラリーに粘り勝ち、優勝に王手をかける。そして3番手の郡山・及川ペアが緊張感の高まる中、見事に勝利を手にし、ストレート勝ちで優勝。今までの雪辱を最高の形で果たした。

郡山主将は「春のリーグ戦に負けてから、インカレで優勝するためだけに練習してきたので非常にうれしい。一人一人が決勝ということを意識することなく、自分のプレーをすることができた」と誇らしげに語った。

田添は「殊勲賞よりもチームの勝利が第一だったので優勝できてよかった」と優勝を何より喜んだ。（髙橋＝写真も）

得点を挙げ、チームメートにガッツポーズを見せる田添＝決勝・明大戦

藤波 グレコ60kg級　前田 グレコ72kg級　V

後列左から松雪、井出、桑山、
前列左から藤波、前田

全日本学生レスリング選手権＝8月28～31日、世田谷区・駒沢体育館

男子グレコローマンスタイル60kg級で藤波諒太郎（文3・金沢北陵高）、同72kg級で前田明都（経営2・花咲徳栄高）が優勝を果たした。インカレ優勝はともに初。

藤波は3回戦まではテクニカルフォールで難なく勝ち上がったが、準々決勝と準決勝は僅差での勝利。迎えた決勝では得意の胴タックルが2度決まり、6―0で快勝。「最後まで粘り強く戦えたことがよかった」と語った。

前田の山場は準決勝。互いにポイントを奪い合う白熱した展開に「ヒヤヒヤした」と語るが、この試合を14―9で競り勝つと、その勢いを保ち決勝も勝利を収めた。「グラウンドポジションからの投げ技と瞬時の判断力が生きた」と胸を張る。

前田は「世界ジュニア選手権（9月17～23日、スロバキア）があるので、まずはそこで世界にどれだけ通用するのか挑戦したい。10月の国民体育大会は地元開催なので、感謝の気持ちを持って大会に臨む」と語った。

その他の入賞者は次の通り。▽フリー61kg級・井出光星（経済4・上田西高）＝3位▽同86kg級・松雪泰成（商3・星城高）＝3位▽グレコ60kg級・桑山裕貴（商4・中津商高）＝3位▽同87kg級・松雪＝準優勝

（藤森峻祐・文3）

男女とも準優勝

関東学生卓球チームカップ＝8月30～31日、世田谷区・駒沢屋内球技場

今大会は各大学3人1チームによる団体戦。3連覇を狙う男子はAチームが決勝で明大に敗れ準優勝。昨年3位の女子もAチームが決勝まで勝ち進んだが、早大に敗れ、準優勝となった。（髙橋）

専Sation 第20号発行

専修大学体育会本部情宣局「専大スポーツ」編集部（通称「専スポ」）が企画、取材、紙面編集を独自で行っているフリー雑誌「専Sation」第20号が9月28日に発行される。

巻頭企画はJ2・ヴァンフォーレ甲府への入団が内定したサッカー部主将の小林岩魚（法4・甲府第一高）へのインタビュー。プロ入りが決まった現在の心境を熱く語ってもらった。そのほかにも、男子バスケットボール部の双子コンビ・重富友希（経営2・福岡第一高）、周希（経済2・福岡第一高）への対談形式でのインタビューや7月のインカレで28年ぶりの優勝を成し遂げた男子卓球部の特集記事など、専大体育会の魅力が満載の内容となっている。

また、20号記念として、ボクシング部OBで第29代WBC世界バンタム級王者の山中慎介さん（平17商）のサイン色紙プレゼント企画を実施。

キャンパスに設置してあるラックなどで配布。「専スポ」部員の情熱がこもった一冊をぜひ手に取ってほしい。定期購読も受け付け中。詳しくはホームページ（https://sensupo.com/）で。（藤森）